

<プレスリリース>

2025 年 8 月 31 日
スペースワン株式会社

カイロスロケット 3 号機の打上げ輸送サービス契約を 国内の複数の顧客と締結



2025 年 8 月 31 日 – 小型ロケットの打上げにより「宇宙宅配便®」の実現を目指すスペースワン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 豊田正和、以下「スペースワン」）は、株式会社アークエッジ・スペース、Space Cubics 株式会社、テラスペース株式会社および広尾学園中学校・高等学校と、打上げ輸送サービス契約（LSA: Launch Services Agreement）を締結しました。

スペースワンは、上記のお客様の計 4 基の衛星を、スペースポート紀伊よりカイロスロケット 3 号機にて打上げる予定です。なお、打上げ時期につきましては、追ってお知らせいたします。



以上

お問い合わせ先
スペースワン株式会社 広報担当
Email: info@space-one.co.jp

株式会社アークエッジ・スペースについて

アークエッジ・スペースは、超小型衛星コンステレーションの企画・設計から量産化、運用までを一貫して手がける宇宙スタートアップ企業です。

今回打ち上げる「AETS-1」は、3U サイズの超小型衛星であり、衛星バス技術の技術実証を目的としたミッションに取り組みます。さらに、その成果は、当社の主力である 6U 衛星や、現在開発中の 100kg 級衛星への技術的フィードバックとして活用することを目指しています。

HP リンク：<https://arkedgespace.com/>

株式会社 Space Cubics について

Space Cubics は、2018 年に創業した宇宙用コンピュータ開発を専門とする JAXA ベンチャーです。宇宙空間をはじめとする過酷な環境で動作するコンピュータの開発に特化し、これまでに人工衛星、宇宙探査機、宇宙用ロボットなど多様な機器向けの開発実績を重ねてきました。今回、カイロスロケット 3 号機に搭載される 3U キューブサット「SC-Sat1a」には、JAXA が国際宇宙ステーションで培った信頼性設計技術を基にキューブサット用に最適化した、自社開発の宇宙用コンピュータ「SC-OBC Module A1」を 2 台搭載し、機体の制御を担います。SC-Sat1a の長期運用を通じて、宇宙空間における SC-OBC Module A1 の耐障害性能を実証し、キューブサット用コンピュータのデファクトスタンダードを目指します。

<https://spacecubics.com/>

テラスペース株式会社について

テラスペース株式会社は、2020 年に創業した超小型衛星の開発を行っている会社です。2024 年 12 月にカイロス 2 号機に搭載した超小型衛星「TATARA-1」の打上げを皮切りに、今後、人工衛星の「軌道上サービス」事業を実施します。社名の「テラスペース」は、ラテン語で大地を表す"terra"と、英語で宇宙を表す"space"を組み合わせた造語で、地球と宇宙を繋ぐ架け橋でありたいという願いが込められています。私たちが子どもの時代には遠かった宇宙が、もう少し頑張れば手の届くところまで近づいて来ました。テラスペースは、「人工衛星軌道投入サービス」や「ホステッドベイロードサービス」をはじめとした軌道上サービスを通して、「宇宙をより身近に」をモットーに「Space Operations Platform」を目指してまいります。

<https://www.terraspace.jp/>

広尾学園中学校・高等学校について

東京都港区南麻布にある広尾学園は、2007 年以来「世界水準の教育」を実現する中高一貫校として成長し、独自の英語教育システムでハーバード、スタンフォードをはじめとした海外大学合格者数の連続国内 No.1 を続けてきた学校です。これまでも、宇宙天文合宿や宇宙飛行士講演会などを行ってきましたが、そういった教育環境の中から実際にスタンフォ

ードや UCLA で宇宙工学を学ぶために進学する卒業生たちを輩出してきました。その後輩たちが、今回の人工衛星プロジェクト「Hiroo Engineering for Orbit」（通称「HErO」）で LED による光通信で基板の温度情報を地上に送信するミッションに挑戦します。学園はこれからの生徒たちの世代にとって、宇宙は夢や憧れではなく、自分たちの学びの先に直接つながる現実であるという認識を持って教育活動を推進しています。

<https://www.hiroogakuen.ed.jp/>

スペースワンについて

スペースワンは、小型人工衛星打上げに特化した宇宙輸送サービスを提供しています。和歌山県串本町・那智勝浦町に位置する専用のロケット発射場「スペースポート紀伊：SPK」と、小型ロケット「[カイロス](#)：KAIROs」で、2020 年代中に年間 20 機、2030 年代に 30 機の打上げサービスを提供する「宇宙宅配便®」を目指しています。2024 年 3 月にカイロスロケット初号機を打上げ、2024 年 12 月にはカイロスロケット 2 号機の打上げを実施しました。

<https://www.space-one.co.jp/>

スペースポート紀伊について

「[スペースポート紀伊](#)：SPK」は、本州最南端の和歌山県串本町に位置する日本で初めての民間のロケット打上げ射場で、宇宙へのアクセスを最短で実現するための包括的なインフラサービスを提供しています。SPK は、南方と東方に開けた地理的特性を活かし、打上げる軌道やタイミングに柔軟に対応できる点が大きな特徴です。宇宙アクセスへの需要は拡大する宇宙ビジネス市場とともに増加し、多様化しています。今後は多数の小型衛星をひとつのシステムとして運用するコンステレーションが、打上げ需要をさらに加速させる見込みです。このようなニーズに対し、スペースワンは「on time, on orbit」、ユーザーが望むタイミングと軌道で衛星を運ぶことを使命としています。柔軟な対応を可能とする自社専用ロケット射場と小型ロケットを備えることで、国内外のユーザーの需要を取り込み、日本および世界の宇宙産業の発展に貢献していきます。

<https://www.space-one.co.jp/site/>